

イ 「対話的な学び」とは

子供が自分なりの考えを形成し、話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりする学び

右のように、自分の考えを広げたり深めたりするには、自分の考えと比べながら他者の考えを理解することが必要である。そのためには、自分の考えをもち、他者に伝わるように表現したり、他者の考えだけでなく、理由を理解したりすることが大切である。

考えを広げる	考えを深める
自分の考えになかったものを受け入れて、自分の考えに生かすこと	自分の考えを基に、多様な観点から自分の考えを見つめ直すこと

(2) 研究の視点

ア 【視点1】について

【視点1】 「対話的な学び」に重点を置いた国語科授業づくり

新学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うこととしている。「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」は、それぞれが関連し合い、一体となって実現されるものであるが、本校の課題との関連がより深い「対話的な学び」に重点を置いた授業改善をしていくことで、三つの学びがバランスよく実現され、本校の課題解決につながると考える。

イ 【視点2】について

【視点2】 複式学級の特徴を生かした指導の充実

複式学級では、異学年が同一の教室で学習するため、「直接指導」と「間接指導」を組み合わせる必要がある。間接指導時の指導を充実させることが重要である。そのため、教師は学習内容を指導するだけでなく、「どのように学ぶか」という「学び方」をより意識して指導する必要がある。本校では特に、話し合いで互いに分かりやすく伝え合うことに課題があり、「対話的な学び」の充実を図ることが、課題解決につながると考える。